

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価 (3月20日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 教育課程の編成に工夫を凝らし、生徒の意欲や関心の高揚に取り組む。</p> <p>② 国際社会で生き抜く高い人格と心豊かな感性を備えたグローバルリーダーの育成に取り組む。</p>	<p>① グループ内で情報を共有しながら教育課程改善を進めるとともに授業時間確保の検討を継続する。</p> <p>② クリティカルに考える力を身につけるとともに、異なる他者を受容し協働して課題解決にあたる力の育成を意図して授業研究を行う。</p>	<p>① 数学の Semester 制を定着させるとともに、授業時間確保のために年間教育計画の見直しをする。</p> <p>② 各教科の視点から批判的思考力や協働的な問題解決力の育成について考察し、研究授業を行う。</p>	<p>① 生徒の希望に沿った授業展開が出来たか。また、35週時間の授業時間が確保する計画ができたか。</p> <p>② 研究授業の際に生徒と教科担当者による振り返りを行い、生徒の意識の変化を確認する。</p>	<p>① ・数学の Semester 制導入1年目であるが成果は現れている。 ・本年度よりわずかではあるが来年度の授業時間を確保するための計画をした。</p> <p>② 研究授業を実施した8教科のうちテーマの達成状況として「よく達成できた」が1教科、「おおむね達成できた」が7教科であった。</p>	<p>① ・進路実現に向けて他教科での Semester 制導入も検討したい。 ・行事の見直し等について他グループの理解と協力のもとさらなる授業時間確保に努めたい。</p> <p>② 他教科間で課題や教授法について共有化を進め、教科横断型学習を進め、生徒に効果的な学習成果を還元できるように努める。</p>	<p>① Semester 制導入が実効を上げている ② 批判的思考とあるが、「健全な批判力」を養う教育を、国語や社会のようなやりやすい科目だけでなく、保健などのようにやりにくい科目でも取り入れて欲しい。</p>	<p>① Semester 制の特徴を活かした履修方法の定着に努めた。</p> <p>② 今後、学力向上とグローバル教育推進に基づく組織的な授業展開にいつそう工夫を凝らし、学校全体で改善に取り組むことが課題である。</p>	<p>① Semester 制導入2年目であり、教育効果の把握のため必要に応じてアンケートを実施するなど課題発見と改善が求められる。</p> <p>② 授業改善に関するテーマを設定し、教職員間で共有化を図り学校全体で組織的に取り組むことが必要である。</p>
2 生徒指導・支援	<p>生徒一人ひとりの個性を伸ばすことができる教育支援を実践し、生徒にしっかり向き合った教育体制の充実を図る。</p>	<p>① 教育相談コーディネーターを中心として、組織的にきめ細かい教育相談体制を整備する。</p> <p>② 多文化理解への柔軟性を高め、グローバルな社会的な課題への認識を深める。</p>	<p>① 月に一度、教育相談コア会議を開催し、問題を抱えた生徒についての情報を共有する。さらに、ケース会議を通じて、その情報を職員全体で共有する。</p> <p>② 多文化への柔軟性を育てるため、ホームステイ等の交流活動を増やす。グローバルな課題への認識を深めるため、グローバルエキスパートレクチャーやグローバルキャンプなどを実施する。</p>	<p>① 教育相談コア会議の場で提示された情報を、職員全体で共有できたか。</p> <p>② 交流活動を増やすことにより、異文化理解への柔軟性を育てることができたか。グローバルエキスパートレクチャーやグローバルキャンプなどを通して、グローバルな課題への認識を深められたか。</p>	<p>① 心身に課題を抱えている生徒に対して教育相談コーディネーターを中心として、まず年次単位で、さらに職員全体へ情報を提供し、その共有を行うことができた。</p> <p>② 交流活動を増やすことで参加者に成果を還元することができている一方で、参加していない生徒を含め学校全体で共有する取り組みはさらに増やす余地がある。</p>	<p>① 該当する生徒が多いので、グループ内のコーディネーターだけでなく、今後さらに年次単位での手厚いケア体制の構築について検討していく必要があると考えられる。</p> <p>② 個々のプログラムの内容をさらに充実させるとともに成果を学校全体で共有する取り組みをさらに増やしていく。</p>	<p>② ・GTEC への取り組みが2年目となり、生徒の英語力の伸び率が明確になった点も評価できる。 ・外へ出る若者が減っている中、パートナー校交流など、留学しようという意識が高いことは頼もしい。 ・日本の中で日本語を母国語としない人と話す機会はますます増える。その中でグローバル教育推進に期待している。</p>	<p>① カウンセリングの希望者が保護者も含めて年々多くなってきており、予約することが難しくなっていることも今後の課題である。</p> <p>② 生徒が充実した学校生活を送ることができるよう様々な対応に工夫を凝らし適切な支援体制の構築が求められている。引き続き、教職員対象の研修を実施し、生徒理解に繋がる学校体制の整備が課題である。</p>	<p>① 教育相談コーディネーターを各年次に配置するなどしながら強化し、さらに教科担当との連携を図り、迅速で実効性のある支援が求められる。</p> <p>② 様々な機会を活用し、生徒理解に繋がる研修内容の充実を図り、生徒と保護者を支援する。</p>

3	進路指導・支援	入学から卒業までの体系化した進路支援の流れを作り、生徒が自らの将来像を見据えて早い時期に目標を定められるよう情報提供を行い、多様で主体的な進路選択を促進する。	進路情報リテラシーを育成すること及び、自己目標発見がタイムリーにできるよう、多様なデータの活用及びフィードバックを行う。	① カレッジセミナー、エキスパートレクチャー、外部講師による進路説明会等を実施する。 ② 校内模試の実施、校外模試・オープンキャンパス・学習ツール等に関する情報や入試情報の提供、データを活用したフィードバックを行う。	① カレッジセミナー、エキスパートレクチャーの実施やオープンキャンパスへの参加により生徒の意識に変革はみられたか。 ② 学習ツールの利用により生徒の学習状況に変化は見られたか。	① 外部講師・大学訪問等は各分野の専門家に接する良い機会となった。また、大学在学中の卒業生による「進路を考える会(6月)」「未来を語る会(2月)」等が進路実現に向けて強い動機付けとなったことがアンケート等から伺われる。 ② 動画視聴による学習ツールの申し込み、登録・視聴した人数は23期81人22期25人21期24人だった。	① カレッジセミナーの協力依頼や卒業生を講師として招くにあたり、教育的効果を高めるために生徒の必要に応じた分野を選定していく必要がある。大学との連携を密にして、主旨にあった行事の継続となるよう調整を図る。 ② 生徒の関心の高さが見られる。生徒によって動画の視聴状況に大きな差がある。	① 外部講師や卒業生を招くことにより、生徒へのよい刺激になっていることは評価できる。	① データを活用することは可能であるので、今後生徒にどのようにフィードバックし、有効な活用について取り組むことが課題である。	① カレッジセミナーやエキスパートレクチャーの実施など外部講師を招く際には目的と教育効果に鑑み、引き続き幅広く意見を聞き選出する。
4	地域等との協働	家庭や地域社会の教育力の活用を推進し協働することで信頼される学校づくりを推進する。	① 地域と共にある学校づくりをすすめる。 ② 連携する大学と積極的に交流を深める。	① 隣接する二谷小学校や神奈川工業高校、みどり養護学校と連携した活動を行う。また学校行事や防災活動を通じて近隣住民との連携を図る。 ② 担当者を決定し、計画的な活動内容を構築する。	① 各学校との連携が図れているか。保護者や地域住民の理解が得られているか。 ② 生徒に有益な高大連携の情報を提供できたか。	① 神奈川工業高校との防災訓練(含:地域の方、消防署)については、天候に恵まれ3年ぶりに合同で実施することができた。 ② 連携大学以外についても案内やポスター等を生徒だけでなく教職員にも情報提供し、研修会にも参加した。	① 数年の間が空いてしまったために、職員がマニュアルを十分に理解しておらず、避難の優先順位について、混乱が生じた。来年度に向けてマニュアルの再確認を徹底したい。 ② 「県立高校生学習活動コンソーシアム」の活用も視野に入れ、高大連携について興味・関心が持てるようにしたい。	① 神奈川工業高校や地域の消防団とも協力し、防災訓練を行ったことは評価できる。 ② 大学との連携を実効あるものとしてほしい。	① に神奈川工業高校と二谷小学校があるので防災の観点から様々な連携のあり方について取り組むことが課題である。 ② 昨年あらたに協定した大学と英語習得につき協力を深めた。次年度に向けてさらに協定する大学と交渉を始めるなど引続き、高大連携の充実に工夫を凝らすことが課題である。	① 地域防災の観点から地域住民と連携した防災訓練の実施に向け取り組む。 ② 高大連携の推進につき担当者を決め、計画的な活動内容と校内の体制の整備に取り組む。
5	学校管理 学校運営	社会の変化に対応し、意欲的に教育の課題に取り組む学校体制の充実を図る。	① 事故・不祥事防止に向け、職員一人ひとりが意識を高く持つ。 ② 本校の様々な取り組みをホームページで発信する。	① 事故・不祥事防止研修会を定期的に設定し、各グループが時期に合わせて実施する。 ② ホームページによる情報発信を更に充実させる。	① 事故・不祥事防止について、職員が自身のこととして意識して取り組んだか。 ② 迅速かつ分かりやすい情報発信ができたか。	① 事故・不祥事防止研修会を計画通り定期的に実施した。 ② 行事の報告や学校案内を適切な時期に発信した。	① 事故を未然に防ぎ不祥事を決して起こさぬよう、不断の努力を行う。 ② 各グループからより多くの情報提供を受けるよう体制を整える。	① 事故防止への意識の高さについては評価できる。 ② ホームページの利用状況についても随時振り返りを行うてほしい。	② 昨年度リニューアルしたホームページについては、教育活動を効果的に地域社会に発信する工夫を凝らし、効果をあげた。今後引き続き、迅速な情報発信に継続的に取り組み、広報活動の充実が課題である。	① 事故・不祥事の防止に職員が当事者意識を持ち、意欲的に取り組む学校体制の充実を図る。 ② 迅速な情報発信と更新を滞ることなく行い、地域住民の学校教育活動の理解に繋げる。